

がんセンターたより

平成 30 年度のご挨拶



病院長
大川 伸一

こんにちは。私は今年度で病院長 3 年目になります。昨年は我が病院にとって、かつて経験したことの無い、大変困難な状況が起きました。放射線治療医の退職によりがんの 3 大医療である放射線治療が一時期、十分に行えなくなっただけか、世界最先端の優れたがん治療機器である重粒子線治療がストップしそうな危機に見まわれました。これに対しては神奈川県黒岩知事始め、多くの方々による様々なご支援をいただき、お陰様で乗り越えることが出来ました。あらためてご心配とご迷惑をおかけした患者さん、ご家族の方を始めとして関係者の方に謝罪致しますと同時に、支えていただいた方々に心から感謝の意を表したいと思います。

もちろんその危機にある時も放射線治療以外の多くの日常の診療は通常通り行われていました。従って現在は、すっかり以前の正常な状態に戻っています。もしかすると以前よりも、もっと強力な病院になっているのではないかと思います。

医療を行う者には、病気で困っている方、悩んでいる方を救うこと、支えになる姿勢が求められます。しかし昨年度のような危機を経験してみると、このような姿勢は決して医療だけに求められるわけでは無いことが分かります。

今後、わが国が超高齢化社会へと進むにあたり、社会全体として経験したことの無い、いろいろな悩みを抱えていくことになるかと思えます。社会の一員である私たちに求められているのは、その具体的な解決法だけではなく、困難に立ち向かう基本姿勢を身につけることも重要と思えます。私たちはそのような力強さを少し身につけたかもしれません。

さて、昨年の 5 月から開始した二俣川駅と病院玄関を往復するシャトルバスは、お陰様で順調に運行され、多くの方々にご利用いただいております。患者さんから感謝の言葉を聞くのは嬉しいものです。

重粒子線治療も今年度は、以前から保険承認されている骨軟部腫瘍に加えて、前立腺がん、一部の頭頸部がんにも保険診療が認められましたので、より多くの方に門戸が広がりました。その他のがん、たとえば肺がん、肝がん、膵臓がん、婦人科がんなどにも先進医療として多くの方々に治療を受けていただきたいと思います。

神奈川県のがん患者さんは、今年も増加すると考えられていますので、私たちは出来るだけ多くの方々の礎となるべく今年度も精進していく所存です。これからもどうぞよろしく願い申し上げます。

がんゲノム 医療連携病院 について

臨床研究所・総括部長 宮城 洋平

ゲノムとは、人の体を構成する細胞の一つ一つが DNA で書かれた設計図として持っている遺伝情報の全体を指す言葉です。個々の情報は遺伝子と呼ばれ、ひとのゲノムは約 2 万個の遺伝子で構成されています。がんはゲノムを構成する複数の遺伝子に複雑な異常が生ずることで起こる病気です。がんゲノム研究の成果により、現在では、がん細胞に起こっている色々な遺伝子の異常に対応する有効な治療薬が次々と開発され、実臨床の場面で患者さんの治療に活用されるようになってきました。

我が国では、昨年度、厚生労働省が中心となって、がんのゲノム異常に基づいた医療を全国の患者さんに提供する体制整備が急ピッチで進められました。「がんゲノム医療中核拠点病院」、中核拠点と連携してがんゲノム医療を提供する「がんゲノム医療連携病院」の指定要件が具体的に示されて、厚生労働省は、まず中核拠点病院の公

募し、全国で 11 病院を中核に選定しました。連携病院については、連携を計画する各中核拠点病院を介して申請を受け付け、3 月中旬には、全国で 127 病院を認定しました。神奈川県では、4 月 1 日現在、5 病院が「がんゲノム医療連携病院」に指定されています（表参照）。連携病院では、国立がん研究センター中央病院が 4 月 1 日から開始した「個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査研究」（先進医療 B）を、先進医療の協力医療機関の申請・承認を経て、各中核病院と連携して順次開始していく事になっています。この「マルチプレックス遺伝子パネル検査」は、114 個の遺伝子の変異・増幅と 12 遺伝子の構造改変を、次世代シーケンサーを使って一度に解析する検査です。我が国のがんゲノム医療は端緒についたばかりですが、今後の発展が大いに期待されています。

| 神奈川県「がんゲノム医療連携病院」（平成 30 年 4 月 1 日現在） | |
|--------------------------------------|----------------|
| がんゲノム医療連携病院 | 連携する中核拠点病院 |
| 神奈川県立がんセンター | 国立がん研究センター中央病院 |
| 横浜市立大学附属病院 | 東京大学医学部附属病院 |
| 聖マリアンナ医科大学病院 | 国立がん研究センター東病院 |
| | 慶應大学病院 |
| 東海大学医学部附属病院 | 慶應大学病院 |
| 北里大学病院 | 慶應大学病院 |

新任の紹介

職員の異動がありましたのでご紹介します。
紙面の都合上、採用・就任された幹部職員、医師、
検査科部長、看護科長の紹介に限らせていただきました。
どうぞよろしくお願いいたします。

幹部職員

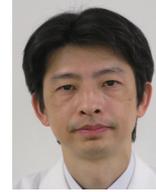


副看護局長
清水 奈緒美



総務課長
山口 陽弘

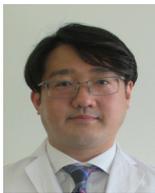
医療局



循環器内科
部長
常松 尚志



消化器外科
部長
大島 貴



放射線腫瘍科
部長
吉田 大作



重粒子線治療科
部長
加藤 弘之



呼吸器内科
医長
中原 善朗



腫瘍内科
医長
本橋 賢治



消化器外科
医長
下田 陽太



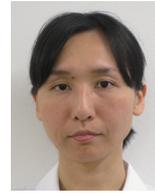
消化器外科
医長
四元 宏和



脳神経外科
医長
山田 幸子



乳腺内分泌外科
医長
菅原 裕子



放射線診断・IVR科
医長
日野 彩子



放射線診断・IVR科
医長
小嶋 大地



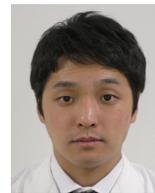
東洋医学科
医長
板倉 英俊



呼吸器内科
医師
臼井 亮



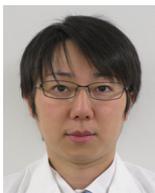
血液内科
医師
安藤 太基



腫瘍内科
医師
佐久間 敬之



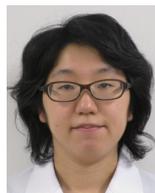
消化器内科
医師
林 公博



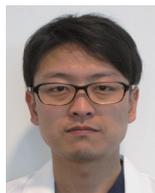
消化器内科
医師
尾関 雄一郎



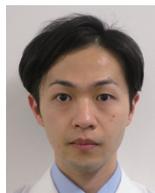
消化器内科
医師
河野 邦幸



消化器外科
医師
加藤 綾



頭頸部外科
医師
吉村 太一



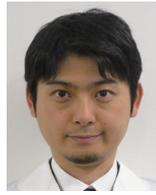
婦人科
医師
上野 悠太



泌尿器科
医師
堤 壮吾



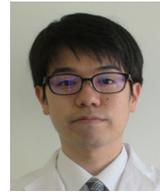
泌尿器科
医師
小林 幸太



骨軟部腫瘍外科
医師
藤田 真太郎



放射線診断・IVR科
医師（専攻医）
小口 翼



放射線腫瘍科
医師
土田 圭祐



検査科
部長
柳川 喜代子



看護科長
佐藤 陽子



看護科長
陸川 敏子



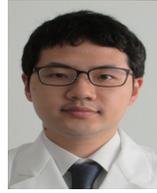
看護科長
久保田 顕子



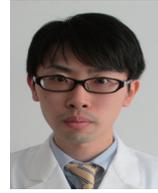
医師
片 佑樹



医師
浅間 宏之



医師
柳田 健



医師
壺井 貴朗



医師
内山 護



医師
小澤 雅代



副看護局長
就任の
ご挨拶



副看護局長
清水 奈緒美



4月1日付で副看護局長に就任いたしました、清水奈緒美と申します。患者支援センター相談支援担当科長在任中は、地域の医療機関・福祉機関のみなさまに大変お世話になりました。この場をお借りして、厚く御礼申しあげます。

今後は、総務担当の副看護局長として、がんセンターの看護スタッフが、患者さん・ご家族、そして地域のみなさまの期待に応え、生き生き仕事ができるよう、微力ながら尽力してまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

科学技術週間参加行事

第 31 回 県民のための公開講演会が開催されました

臨床研究所・がん治療学部 菊地 慶司

さる 4 月 19 日（木）、二俣川の旭区民文化センター（サンハート）ホールにて、県民のための公開講演会「分かりやすいがんゲノム医療」が臨床研究所の主催により開催され、180 人を超える方々にご来場いただきました。「がんゲノム医療」については、本がんセンターたよりの宮城洋平部長の記事をご参照下さい。

講演会では臨床研究所・がん分子病態学部の宮城洋平部長により「がんゲノム医療時代の到来、知っておきたいゲノムのこと」、消化器外科（大腸）の塩澤学部長より「遺伝子を調べることで変わった最近の大腸がん治療」、乳腺内分泌外科の山下年成部長より「乳癌最新治療の現状と今後の展望」を紹介いたしました。来場の皆様からのアンケートでは「ホットな話題がわかりやすく解説されていた」「がん治療の明るい未来を感じた」などの感想をいただき、皆様には「がんゲノム医療」の潮流を感じ取っていただけたのではないかと思います。

ご来場下さった皆様、演者の先生方と大川病院長をはじめご協力くださった関係者の方々に感謝いたします。また、今後もこのような講演会を通して県民の皆様ががんの最新情報を的確にお伝えしていけるよう臨床研究所も努力して参ります。



重粒子線治療に係る診療報酬改定について

重粒子線治療管理室長 川上 稔

【先進医療の疾患と費用】

現在、先進医療として当院で治療可能な疾患は、肺がん、肝がん、膵がんです。これらの疾患の技術料は、350 万円と高額です。

しかしながら、医療保険の中には先進医療の技術料を給付する特約を備えたものがあります。治療をご検討される方はこの点についてご加入の保険会社にお問い合わせください。

また、その他にも神奈川県や大和市の助成金制度などがありますので、併せて各自自治体にお問い合わせください。

【保険適用の疾患と費用】

2016 年及び 2018 年 4 月に骨軟部腫瘍、前立腺がん、頭頸部腫瘍（口腔・咽喉頭の扁平上皮癌を除く）が、先進医療から保険適用となり、患者さんの自己負担額が少なくなりました。（例えば前立腺がんであれば、350 万円から 48 万円（3 割負担）に減額となります。）

また、高額療養費制度の利用も可能となり、収入に応じて負担額の軽減がありますので、治療をご検討される方は、ご加入の健康保険組合にお問い合わせください。

「重粒子線治療施設 i-ROCK」



◆ホームページアドレス

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/i-rock/index.html>


ご紹介

漢方サポートセンター

東洋医学科（漢方サポートセンター）
 医長 板倉 英俊

漢方は中国から伝わってきた古い医学です。おなじみの葛根湯は、卑弥呼のいた時代から使いつけられた古い処方です。江戸時代に蘭医学が伝わってくるまでは、私たちの先祖のあらゆる健康を支えてきたのが漢方医学なのです。

そのため、がんに対する漢方治療も昔から多く試されてきて、抗がん生薬と言われるものも見つけられました。ですが、これらを使っても残念ながら漢方単独ではがんを治すことは出来ません。では、漢方治療にはどんな役割があるのでしょうか？

がんの治療をすると、体力が落ちて元気がなくなったり、吐き気が出て食欲が落ちたり、手足がしびれたり、めまいがしたり、リンパ浮腫になったり、ホットフラッシュに悩まされたり、冷え性が増悪したり、様々の症状でお困りの事があると思われます。

こうした症状を緩和して、がんの治療をサポートしていくのに、漢方薬はとても有効なのです。

ぜひ、遠慮なくご相談ください。



★ボランティア会 ランパス★ による
 5月・6月
 木曜ミニコンサート予定表

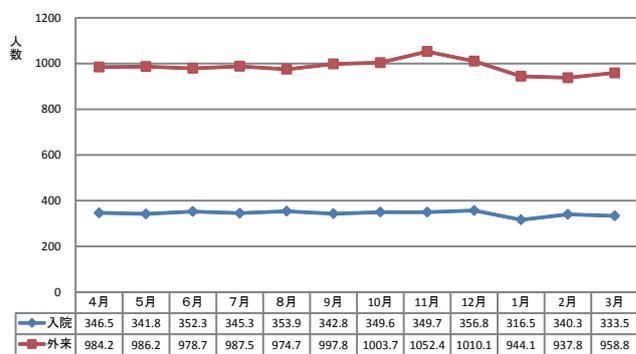
♪ 時間：午後 2 時～（約 30 分）♪

- 5/10 **看護の日コンサート**
 声楽 江口 正之
 ピアノ 泉 ゆりの
- 5/17 カンツォーネ 安井 慶子
- 5/24 ピアノ 清水 真美
- 5/31 コーラス あげぼの神奈川
- 6/7 声楽 齋藤 範子
- 6/14 声楽 小島 三恵子
- 6/21 声楽 朝倉 真弓
- 6/28 アンサンブル 栄ゾリステン

当日演奏者の都合により変更になることがあります。



平成29年度 1日平均患者数



編集後記

今年度も多くの仲間を迎え入れることができました。特に看護師の増員により、今まで以上に充実した看護の提供が期待されています。昨年度は放射線科医師の退職に伴い、県民の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。この顛末については、かながわ県のたより（5月号）に黒岩知事のコメントが掲載されています。私たち職員一同のがん患者さんへの思いは変わらず、より一層、がん診療に誠心誠意向き合っていく所存ですので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。（企画情報部長 金森平和）

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2

TEL 045-520-2222（代表）

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

